

# 瑞穂市中山道まちづくり基本構想

令和5年6月

瑞穂市

## 目次

目次.....	3
第1章 はじめに.....	1
1 策定の背景と目的.....	1
2 策定にあたって.....	1
3 対象地域.....	2
4 本構想の位置づけ.....	2
第2章 地域の概況.....	3
1 地域の現況.....	3
1) 人口.....	3
2) 地域住民の声.....	4
2 地域の資源.....	5
3 社会情勢の変化.....	7
4 強みと課題の整理.....	7
1) 強み.....	7
2) 課題.....	7
第3章 将来イメージと基本コンセプト、基本方針.....	8
1 地域の将来イメージ.....	8
2 基本コンセプト.....	9
3 基本方針.....	9
第4章 実現のための具体方策.....	10
1 3つの視点.....	10
2 実施内容.....	11
第5章 アクションプラン.....	13
1 取組項目.....	13
第6章 思いを形に.....	17
1 中山道まちづくりを推進する体制づくり.....	17
1) 推進体制.....	17
2) 地域主体のまちづくり.....	18
3) まちづくりの担い手が育ち、繋がる仕組みづくり.....	18
2 推進プロセス.....	19
1) 最終目標の設定.....	19
2) 中間目標（KPI）の設定.....	20

## 第1章 はじめに

### 1 策定の背景と目的

瑞穂市は令和2年度の国勢調査においても人口増加傾向にあり、特に若い世代を中心に、結婚等を理由とした転入超過が続いています。一方で、本構想の対象地域である瑞穂市北西部においては、市街化調整区域に位置付けられていることなどから、人口減少・高齢化が進んでおり、地域間格差が広がっています。このまま地域の活力が減っていくと、いわゆる無縁社会となることが懸念されます。

しかしながら、瑞穂市北西部は魅力的な資源を多く有する地域でもあります。市を東西に横断する中山道には、小簾紅園や美江寺宿などの歴史的資源が残っており、五街道の1つとしてウォーキングに來られる方もいらっしゃいます。また、令和4年春には、大月地区に中山道大月多目的広場（サンコーパレットパーク）がオープンしました。芝生広場と市の公式キャラクターかきりんをモチーフとした大型遊具があり、子どもの遊び場やイベント会場として若い世代を中心に活用されています。

本構想は、多様な地域資源を活用し、中山道沿線を中心とした瑞穂市北西部に「にぎわい」を創出することを目的としています。そして、地域の方々が自らこの地域に適した「にぎわい」「活性化」について考え、「将来像」を描き、将来像実現のための「取り組み」について共有し、行政、地域、民間などが一体となってその取り組みに「参画する」きっかけとなることを目指します。

### 2 策定にあたって

本構想の策定にあたり、全3回にわたる市民ワークショップを開催しました。市内外から延べ60人にご参加いただき、中山道を活用したにぎわい創出について自由に議論していただきました。

表1 中山道まちづくり市民ワークショップの開催概要

	第1回	第2回	第3回
日程	令和4年11月19日(土)	令和4年12月3日(土)	令和4年12月17日(土)
会場	巢南公民館	瑞穂市民センター	巢南公民館
参加者	18名	23名	19名
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のいいところ</li> <li>まちづくりの目標</li> <li>将来イメージ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンコーパレットパークにもとめること</li> <li>中山道を舞台にやりたいこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中山道を舞台にやりたいこと</li> <li>みんなでやること</li> </ul>

1 ネーミングライツ契約によって決定した愛称（使用期間：令和4年4月1日から5年間）。本構想では、現状においては愛称を用いることがありますが、将来の方針や計画においては正式名称の「中山道大月多目的広場」を用いています。

### 3 対象地域

本構想では、瑞穂市南西部の中山道沿線の西小学校区、中小学校区、南小学校区を対象地域とします。小簾紅園がある呂久地区から、中山道大月多目的広場（サンコーパレットパーク）や西部複合センター（市図書館分館、巢南保健センター）、巢南庁舎、巢南中学校がある西小学校区を通過して、美江寺宿までの区間を指します。



図1 対象地域

### 4 本構想の位置づけ

本構想の内容は、上位計画である「瑞穂市第2次総合計画」や関連計画である「第2期瑞穂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合性を図ります。

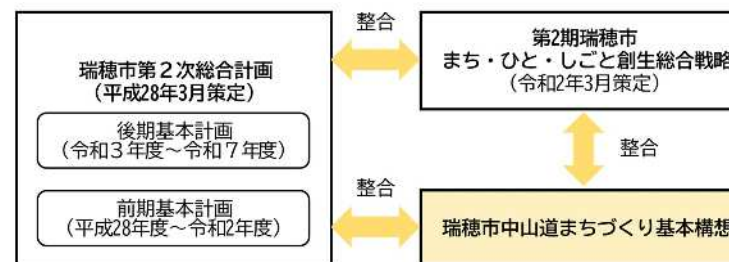


図2 本構想の位置づけ

また、本構想における「にぎわい」とは、単に人が集まることのみを指しません。人が集まる場所に「コミュニケーション（又はコミュニティ）」が生まれることを、「にぎわい」創出の定義としています。

## 第2章 地域の概況

### 1 地域の現況

#### 1) 人口

人口増加傾向にある市南部と比較すると、対象地域周辺は人口が少なく、特に中小学校区と西小学校区は近年減少傾向にあります。また、同時に高齢化も進んでいます。

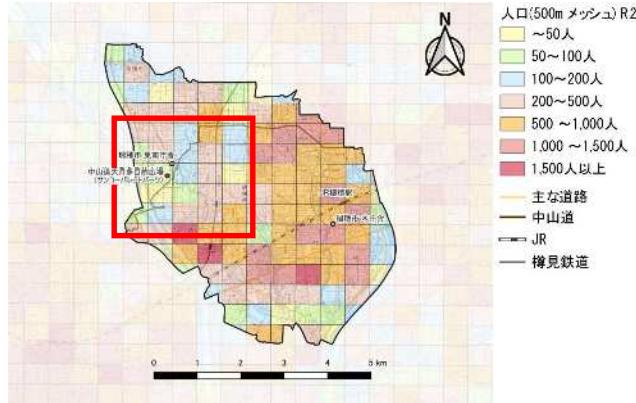


図3 瑞穂市の人口（2020年）

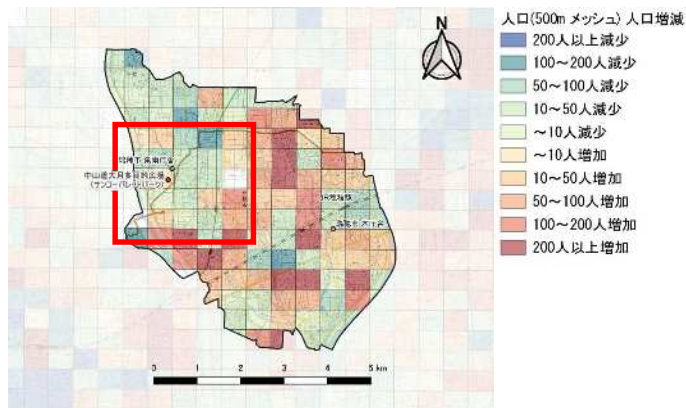


図4 瑞穂市の人口増減（2010年→2020年）

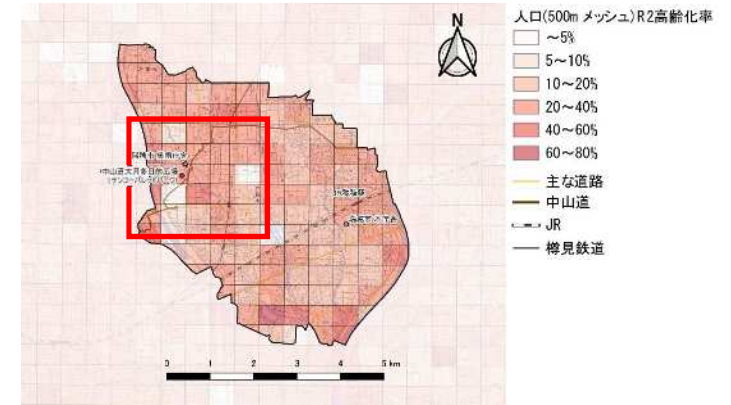


図5 瑞穂市の高齢化率（2020年）

#### 2) 地域住民の声

中山道大月多目的広場（サンコーパレットパーク）の建設検討時に各地区にてタウンミーティングが開催されました。ここでは、高齢化に伴い、相互扶助や地域のつながりの形成を求める声が見られました。また、多くの方が住み慣れた地域で、様々な形でつながりや交流を持ちながら、これからも住み続けたいと願っています。

表2 タウンミーティングでの意見（一部抜粋）

南小学校区（呂久地区）	中小学校区	西小学校区
<ul style="list-style-type: none"> <li>横のつながりを大切にしたい</li> <li>早めの対応ができれば、一人暮らしの高齢者をみんなで助け合える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護等の支援が必要な人がいる</li> <li>サロンなどを活用し、地縁を活かして、自分たちができることをしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事や交流が減り、自治会員の状況がわからない</li> <li>遠くの親戚より近くの他人が大切</li> </ul>

## 2 地域の資源

対象地域は、以下のような資源があります。



◀皇女和宮が中山道を御降嫁された際、呂久の渡しを渡船されたことを記念して毎年2回行われています。



◀皇女和宮が中山道を御降嫁された際、呂久川を御座船でお渡りになる時に紅葉をご覧になり、和歌を詠まれました。



▲大名・高家・公卿・幕吏などの休憩宿泊施設。



(写真：瑞穂市 HP 等より引用)

◀令和4年春にオープンした、いつでも誰でも利用できる多目的広場。広大な芝生広場と、かきりんをモチーフとした大型遊具があり、子どもの遊び場やイベント会場として活用されています。

### 3 社会情勢の変化

令和元年12月以降の新型コロナウイルス感染症の広がりを受けて、わたしたちの社会生活には様々な変化が見られました。地域においては、観光客が大幅に減少しただけでなく、お祭りや各種イベントなど、人々が集まる機会も格段に少なくなりました。人と人とのつながりの形成も以前と比べて難しくなっており、現在の状況に即した工夫が求められています。

一方で、様々な場面においてDX（デジタルトランスフォーメーション）が進んでおり、Society 5.0への移行が加速しています。いつでもどこでも情報にアクセスすることが可能となり、人とのつながりはリアルな空間に限りません。さらに、コロナ禍も相まって、ICT技術が個人単位で普及しており、働き方に対する目線も変化しました。その結果、「地方に暮らし、地方で働く」という考え方も増えています。また、クリエイティブな活動へのハードルも下がり、趣味や特技を生かしてマネタイズするなど、個人が活躍する時代と言えます。

これに加えて、2015年に採択されたSDGs（持続可能な開発目標）に向けた取り組みも非常に重視されるようになりました。より良い世界を目指すためには、行政や企業、各個人など、国や地域を問わずさまざまな単位で、サステナビリティに対して取り組むことが重要となっています。

このように、現在は多様な変化に直面しています。この変化に対応したまちづくりが、これからの地域においては必要となることが考えられます。

### 4 強みと課題の整理

以上のことを踏まえ、対象地域の強みと弱みを以下に整理しました。

#### 1) 強み

- ・ 中山道をはじめとした歴史的資源が豊富である。
- ・ 市民が集まる場所として、様々な利用方法が可能な中山道大月多目的広場（サンコーパレットパーク）がある。
- ・ 妊娠・出産・子育てに関する補助金制度や高校3年生までの医療費の無料化制度などがあり、瑞穂市の子育て環境が充実している。

#### 2) 課題

- ・ 現在人口減少傾向にあり、地域の活力が失われてゆくことが懸念される。
- ・ 地域内でのつながりについて、需要はあるものの現状希薄になっている。社会情勢も相まって、これまでとは違うアプローチが求められている。
- ・ 地域資源の一体的な活用が不十分である。

## 第3章 将来イメージと基本コンセプト、基本方針

### 1 地域の将来イメージ

市民ワークショップにおいて、地域の将来イメージについて議論し、中山道を舞台にやってみたいアイデアなどを出し合いました。その結果が下の図『やりたいことマップ』です。



図6 『やりたいことマップ』

※このマップは、市民ワークショップ参加者のアイデア・意見をイメージ化したものであり、場所や事業を特定するものではありません。また本構想の記載内容と必ずしも一致するものではありません。

「中山道大月多目的広場（サンコーパレットパーク）の拠点化」「美江寺宿を中心に歴史資源の活用」「地域内外の多世代交流」の3つの軸を中心に、ハード・ソフトの両面から多様なアイデアが集まりました。各アイデアの実施する「場所（拠点）」は、中山道沿線全域から小簾紅園や中山道大月多目的広場（サンコーパレットパーク）、美江寺宿、地域の公共施設、オンラインや仮想空間など、多岐にわたります。また、実行する「ひと」については、主に地域住民の方々が主体となっており、行政や民間企業との連携が期待されるアイデアも散見されます。さらに、地域の有用な資源として最も有力であるのが「歴史」です。多くのアイデアが、対象地域の歴史に絡めたものとなっています。

## 2 基本コンセプト

地域の現状や強み・課題、将来イメージを踏まえて、基本コンセプトを以下に定めます。

つなぐ「地域」「ひと」「歴史」 つくる「次世代中山道」

## 3 基本方針

基本コンセプトを基に、3つの基本方針を策定しました。

### 方針① 中山道を基軸に、3つのエリアをつなぎます

美江寺宿と周辺の関連史跡がある美江寺宿エリア、若い世代が集まる新しい地域のスポットである中山道大月多目的広場（サンコーパレットパーク）、皇女和宮ゆかりの小簾紅園等がある呂久地区を3つの拠点として、中山道を基軸としたつながりや交流を創出します。さまざまなにぎわい創出活動を円滑にすると同時に、瑞穂市の中山道としての一体感とイメージを構築し、地域住民の誇りや愛着の醸成、対外的なブランディングを図ります。

### 方針② 中山道大月多目的広場と街道で、世代間交流と社会参画を進めます

子育て世代を中心に賑わう中山道大月多目的広場と、児童図書が充実する図書館分館を中心に、子どもや子育て世代と地元高齢者等の世代間交流を進め、子育て世代かえら選ばれるまち・瑞穂市と、高齢者が元気な地域としてのブランドづくりを推進します。また、これらの活動を基に当該地域のまちづくりを推進する人材育成、組織形成を図ります。

### 方針③ 地域の歴史的資源を活用し、かつての街道のにぎわいを創り出します

宿場町として賑わった中山道・美江寺宿。現在も地域に残る歴史的資源を活用し、各拠点の整備や、地域活動支援、歴史的祭事の開催などを通してかつての街道のような賑わいを創り出します。また、SNSやIT技術なども導入したイベントの実施や発信を行い、現代に即した新たな中山道の魅力をつくり出します。そして、中山道を通じてにぎわいの波及、交流、融合を目指します。

## 第4章 実現のための具体方策

### 1 3つの視点

策定した基本コンセプトと基本方針を基に、以下の3つの視点で具体策を実施していきます。

	にぎわいの土台づくり	地域内の にぎわいづくり	地域を超えた にぎわいづくり
目標	にぎわいを創出する取り組みの土台となる拠点や組織を作ります。	地域内で仲間づくりをしながら、地域に対する愛着や醸成し、住み続けられるまちを目指します。	生活や活動の場として対象地域を選択する関係人口を増加させ、持続可能なまちを目指します。
地域をつなぐ	【実施内容1】 中山道大月多目的広場の 拠点機能強化		
	【実施内容2】 3つの拠点をつなぐ中山道づくり		
人をつなぐ	【実施内容3】 まちづくり推進団体の組成	【実施内容6】 暮らしと拠点施設を つなぐ事業の展開	【実施内容8】 地域の魅力の発信
	【実施内容4】 関連コミュニティの連携		
歴史をつなぐ	【実施内容5】 美江寺宿の交流拠点づくり		
		【実施内容7】 歴史といまをつなぐ中山道のコンテンツづくり	

## 2 実施内容

各実施内容は、単体で実行するだけでなく、他の項目と掛け合わせて実施することで、相互の相乗効果を期待します。

### 【実施内容1】中山道大月多目的広場の拠点機能強化

現在も子育て世代を中心ににぎわいをみせている中山道大月多目的広場を、よりひとが集まり、楽しめる場所にして、地域のまちづくりの拠点としてその機能を強化します。主要ユーザーである子育て世代を中心にくつろぎ、交流する場をつくるとともに、周辺施設との連携も検討しながら様々な取組みが生み出されるハブとなってにぎわい創出の拠点となることを目指します。



### 【実施内容2】3つの拠点をつなぐ中山道づくり

「小簾紅園」「中山道大月多目的広場」「美江寺宿エリア」の3つの拠点をつなぐため、瑞穂市の中山道としての一体感や周遊しやすい環境づくりを検討します。ソフト事業においては、「小簾紅園」「中山道大月多目的広場」「美江寺宿エリア」の3つの拠点をつなぐイベントを実施します。地域内外の両者に対して、対象地域における一体感とイメージを印象付けます。



### 【実施内容3】まちづくり推進団体の組成

まちづくり推進団体として、「(仮称)中山道まちづくり委員会」を組織し、地域住民によるまちづくりへの参画を実現します。また、将来的な拠点施設の整備と管理・運営への関わり方も想定し事業者のネットワークづくりを進めます。



### 【実施内容4】関連コミュニティの連携

中山道まちづくりに関連する市民活動団体や、民間企業、各地区の自治体などのつながりを形成し、地域全体で行うにぎわいづくりを実現します。また、情報や取り組みに関する連携を促すことで、他の実施内容との相乗効果が期待できます。



### 【実施内容5】美江寺宿の交流拠点づくり

中山道・美江寺宿の交流拠点づくりに向けた取り組みを始めます。地域の歴史を知る場所、地域の方の文化活動の発表の場、関連団体の活動拠点、地域外観光客に向けて観光案内やおもてなしの場所など、歴史を中心に、地域やひとをつなげる交流拠点となることを目指します。



### 【実施内容6】暮らしと拠点施設をつなぐ事業の展開

地域の子供から子育て世代、高齢者を中心に、世代を超えて交流することができる活動を実施し、ひととひとのつながりをつくると同時に、地域住民の地域活動やまちづくりへの参画も促進します。地域の人材を活かしながら交流し、生活のなかに中山道のまちづくりがあるライフスタイルを目指します。



### 【実施内容7】歴史といまをつなぐ中山道のコンテンツづくり

地域の有する歴史的資源を活用し、歴史を継承すると同時に、現代のニーズに即した新しい形のイベントとして実施していきます。IT技術など新たなツールを活用したコンテンツをつくることで、歴史と最新をつなぐとともに歴史的資源に新しい視点を追加することで、話題性や利便性を向上させ、新規層とのタッチポイントを創出し、地域外へのアプローチを図ります。



### 【実施内容8】地域の魅力の発信

地域の魅力的な資源や、イベント、まちづくりの取り組みと結果などについて、SNS (Instagram, Twitter, Facebook, LINE, YouTube など) を通じて発信を行います。地域外からの転入者や関係人口の増加を目指します。





## 第5章 アクションプラン

### 1 取組項目

第4章で記載した実施内容をもとに、より具体的なアクションプランを策定します。

○：対応する方針

◎：強く対応する方針

◆アクションプラン一覧（1）

項目		内容
<b>【実施内容1】中山道大月多目的広場の拠点機能強化</b>		
1-1	適切な管理・運営方法を探る社会実験の実施	民間企業と行政が連携し、拠点機能強化に際した適切な管理・運営方法を探る
1-2	周辺の公共施設との連携策の検討	利用者サービスの拡大を図るため、周辺施設との一部機能の共有や拡大などを検討する
1-3	拠点機能強化のための施設、管理・運営方策の検討	拠点としてより幅広い目的に利用できるよう、必要となる施設や管理・運営方策を検討する
1-4	拠点機能強化のための施設整備	社会実験やその他検討の結果を基に、機能強化に必要な施設整備を進める
<b>【実施内容2】3つの拠点をつなぐ中山道づくり</b>		
2-1	中山道の周遊手段の充実	中山道の周遊手段を充実させることで、利便性の向上を図る
2-2	中山道周遊イベントの実施 (スタンプラリーやウォーキングなど)	多くの人に対して中山道の周遊を促し、対象地域の一体感とイメージを構築する
<b>【実施内容3】まちづくり推進団体の組成</b>		
3-1	「(仮称)中山道まちづくり委員会」の立ち上げ	地域主体のまちづくりを実現するため、地域を代表する組織を形成し、各取り組みを進める
3-2	事業者検討会の実施	将来的な拠点施設の整備と管理・運営への関わり方を想定し、事業者のネットワークをつくる
<b>【実施内容4】関連コミュニティの連携</b>		
4-1	地域内外のコミュニティのつながりを形成	地域内サークル、ボランティア団体などの各コミュニティをつなげ、他項目の実施に活かす
4-2	各地区の自治会の連携体制の構築	各地区における情報や取り組みの連携を図り、市内への展開を行う

主体				主な実施場所	スケジュール					方針①	方針②	方針③
住民	組織	企業	行政		R5	R6	R7	R8	R9~			
		●	●	中山道大月多目的広場	[Blue bar]					◎	○	
			●	中山道大月多目的広場	[Blue bar]					◎	○	
		●	●	中山道大月多目的広場		[Blue bar]				◎	○	
		●	●	中山道大月多目的広場				[Blue bar]		◎	○	
		●	●	中山道			[Blue bar]			◎		
	●	●		中山道	[Blue bar]					◎	○	○
	●		●	—	[Blue bar]						◎	
		●	●	—	[Blue bar]						◎	
●	●	●	●	—	[Blue bar]						◎	
	●		●	—	[Blue bar]					○	◎	

○：対応する方針  
◎：強く対応する方針

◆アクションプラン一覧（2）

項目		内容
【実施内容5】美江寺宿の交流拠点づくり		
5-1	拠点整備の取り組みに向けた人材確保	現在活動している市民団体や新たな地域人材が中心となり、市民による推進組織体制を構築する
5-2	空き家などを活用した施設計画、運営計画等の検討	空き家活用などを視野に入れ、多様な目的で使用が可能な施設運営等の計画を検討する
5-3	恒常的取組へ向けたコンテンツ開発	未来を見据えた美江寺宿ならではのコンテンツを開発し、持続的ににぎわいを目指す
5-4	歴史的資産や記録の収集、整理	地域の歴史の発信拠点となり、地域内外への周知を図るとともに、他項目の取り組みに活かす
5-5	昔ながらの遊びや暮らしを体験するイベントの実施	地域住民一人一人が主役となり、地域への理解と愛着を深めながら、幅広い世代間交流を促進する
【実施内容6】暮らしと拠点施設をつなぐ事業の展開		
6-1	パブリックスペースを活用した地域の日常生活の充実	パブリックスペースを活用した、地域内の子育て支援や、コミュニケーションの活性化を促進する
6-2	一人一人の趣味や特技を生かしたまちづくり人材の発掘	地域人材の社会参画とそれを通じた世代間交流を促進する
6-3	地域の農産物や特産物を販売するマルシェの開催	地域ブランドを通じた交流を促進し、愛着や誇り、イメージの形成を図る
6-4	地域内事業者や個人を対象としたチャレンジショップ事業の展開	地域内の事業者や女性、高齢者などの多様な働く形を実現すると同時に、次世代の心を育む
【実施内容7】歴史といまをつなぐ中山道のコンテンツづくり		
7-1	歴史を継承したイベントの実施	美江寺宿場まつりやお蚕祭り、和宮大行列の再現など、地域の歴史に触れる機会を創出する
7-2	AR や VR を活用したコンテンツ開発	リアルと仮想空間、歴史といまを融合させたコンテンツを開発し、対外的なアプローチを図る
【実施内容8】地域の魅力発信		
8-1	各 SNS の開設、運営方針や主体の検討	持続的な SNS 戦略を通して地域ブランディングを進めるため、地域人材を中心に検討を行う
8-2	各 SNS にて、地域の資源やイベント、まちづくりの取り組み結果を発信する	地域の「にぎわい」を発信することで、関係人口の増加を目指す。

主体				主な実施場所	スケジュール					方針①	方針②	方針③
住民	組織	企業	行政		R5	R6	R7	R8	R9~			
●	●	●	●	美江寺宿	■						◎	○
	●	●	●	美江寺宿		■	■				◎	○
	●	●	●	美江寺宿		■	■	■	■		○	◎
	●			美江寺宿		■	■	■	■		○	◎
●	●			美江寺宿		■	■	■	■		◎	○
【実施内容6】暮らしと拠点施設をつなぐ事業の展開												
		●	●	中山道大月多目的広場				■			○	◎
●	●		●	中山道大月多目的広場 美江寺宿	■	■	■	■	■		◎	
	●	●	●	中山道大月多目的広場	■	■	■	■	■		◎	
●		●	●	中山道大月多目的広場				■			◎	
【実施内容7】歴史といまをつなぐ中山道のコンテンツづくり												
●	●		●	小簾紅園～美江寺宿		■	■	■	■		○	◎
	●	●	●	中山道 オンライン			■	■	■		○	◎
【実施内容8】地域の魅力発信												
●	●			—	■	■					○	◎
●	●			—		■	■	■	■		◎	◎

## 第6章 思いを形に

### 1 中山道まちづくりを推進する体制づくり

#### 1) 推進体制

「地域」、「行政」、「民間企業」の3者が相互に連携しながら中山道まちづくりを推進します。さらに、「地域」には「地域住民」と「まちづくり組織」に分けられ、それぞれの役割を担います。

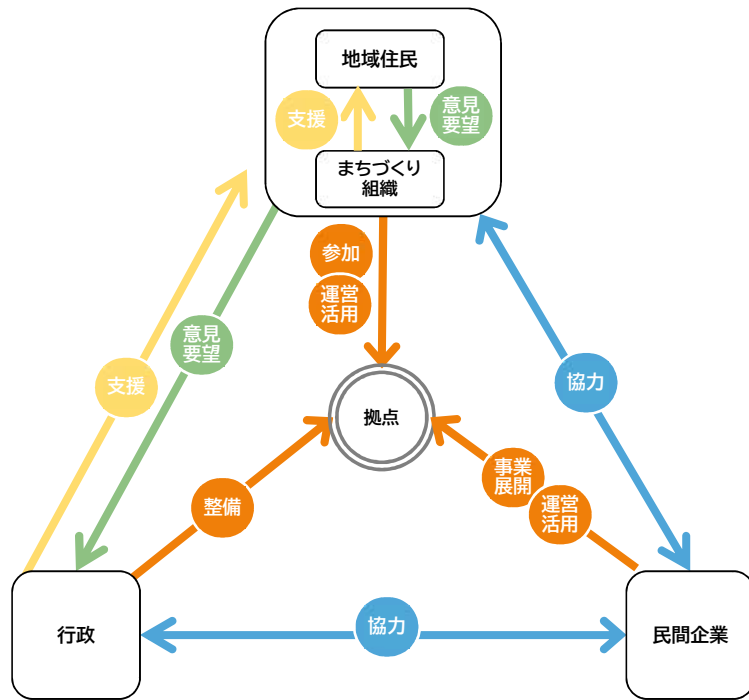


図7 推進体制

表3. 推進主体の役割

地域住民	地域の各種活動団体や、地域住民一人一人が主役となり、まちづくりに携わります。
まちづくり組織	地域住民を代表したまちづくり組織として、「(仮称)中山道まちづくり委員会」を形成します。地域住民の意見や要望を反映した取り組みの実施主体としてまちづくりに携わります。
民間企業	まちづくりに必要となる民間活力の導入や、事業連携などを実施します。
行政	関連する各種行政機関が、地域の声や要望を取り入れ、柔軟に対応します。
拠点	4者の中心にある拠点は、ステークホルダーが集まり、情報を共有し、相互連携を促し、新しい活動が生まれる場所としての役割を持ちます。

#### 2) 地域主体のまちづくり

本構想では、地域住民一人一人がまちづくりの主役であると考えます。誰もが地域への思いを語り、将来像を描くことはもちろん、趣味や特技、これまでの経験を活かして将来像の実現のための取り組みに参加できるような仕組みをつくります。行政や民間企業、まちづくり組織は、各取り組みにおいて地域人材を積極的に活用すると同時に、住民の地域参画に対する支援を行います。また、地域住民は、地域やまちづくりの意見・要望を行政やまちづくり推進組織に伝えることで、一人一人の思いを反映させたまちづくりを実現します。

#### 3) まちづくりの担い手が育ち、繋がる仕組みづくり

地域主体のまちづくりを推進するために、地域内人材を発掘し、まちづくりの担い手として育て、相互に繋がる仕組みづくりを進めます。

地域住民を中心に構成するまちづくり組織の立ち上げも、そのひとつです。地域住民の意見や要望を反映した取り組みの実施主体となる一方で、地域内外の関連コミュニティと結びつき、各取り組みにおいて多様な携わり方を探ります。行政や民間企業は、それぞれの立場から取り組みの実現に向けた支援を行います。

また、各取り組み結果の分析や、地域内外へ向けた発信も行います。地域外からの転入者や、次世代を担う子供たちに向けて地域への愛着を高め、かつ地域の未来への可能性を見出す心を育み、世代を超えて持続可能性のある仕組みをつくります。

## 2 推進プロセス

### 1) 最終目標の設定

本構想では、将来的な最終目標を「中山道を活用したいぎわいの創出」とします。対象地域におけるにぎわいを「地域外からの新たなにぎわい」と「地域内における持続的なにぎわい」の2つに分類し、その指標として「指標1：対象地域の転入者数」「指標2：対象地域への愛着・定住意向」の2点を設定します。

この指標に対し、各アクションプランの項目に対応した中間目標（KPI）を定め、各項目の評価・見直し・改善を行うことで、最終目標の達成を目指します。

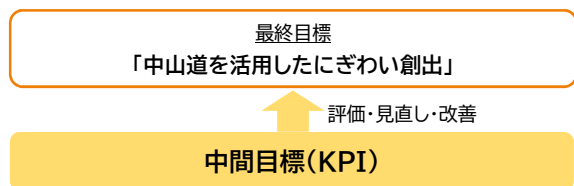


図8. 推進プロセス

指標1：対象地域の転入者数

指標	基準値	目標値 (令和9年3月)
瑞穂市の転入者数※1	2,492人 (2022年)	2,500人
対象地域（西小学校区、中小学校区、南小学校区）の合計人口※2	13,773人 (2023年2月)	14,100人

※1 住民基本台帳人口移動報告より

※2 市の統計 地区別人口世帯数より

指標2：対象地域への愛着・定住意向

指標	基準値 (平成27年)	目標値 (令和9年)
市への愛着度 (3地区平均) ※3	76.6%	80%
市への定住意向 (3地区平均) ※4	78.5%	82%

※3,4 瑞穂市市民アンケート（2015）より

### 2) 中間目標(KPI)の設定

中間目標とその目標値を以下のように設定します。

		基準値 (2023)		目標値 (2027)	
●多様な活動を促進する場所となる拠点の強化（実施内容1、2）					
1	各拠点における利用者満足度※5	口コミ 件数	評価	口コミ 件数	評価
	中山道大月多目的広場	69	4.1	230	4.3
	旧中山道 美江寺宿	14	3.6	35	3.8
	小簾紅園	59	3.8	135	3.8
2	イベント等で拠点を利用する個人、団体数	-		10/年	
●活動主体の持続的な連携（実施内容3、4）					
3	新たに組織し、活動を継続しているまちづくり関連の団体の数	-		3	
●多様な交流の実施（実施内容2、5、6、7）					
4	様々なテーマのイベントの実施数	-		12回/年	
●地域人材の活用（実施内容1、2、3、4、5、6、7、8）					
5	活動に携わる地域人材の人数	-		30人	
6	マルシェやチャレンジショップ等に出店する店舗のうち、対象地域内の事業者や個人の割合	-		10%	
●世代を超えた日常の交流（実施内容6）					
7	各拠点で展開されるコミュニティの数	-		5件/年	
●歴史的資源の活用（実施内容7）					
8	地域の歴史を活用したコンテンツの数（イベント等）	-		5件/年	
●新しい地域の発信（実施内容8）					
9	SNS（Twitter や Instagram、Facebook 等）を活用した発信数	-		50投稿/年	

※5 Google マップより